

●診療科の特徴

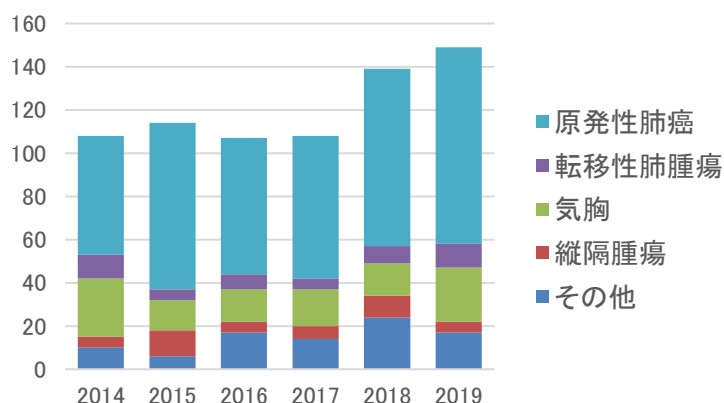
1. 呼吸器外科では胸の中にある肺、縦隔などの病気を中心に手術を行っています。病気の診断、評価は呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携して行われ、手術で良くなる状況かどうかを判断しています。
2. 手術症例の6～7割は肺がんであり、命に関わる病気でもあるため肺がんには最も力を入れています。がんを治すことにこだわり、手術手技はもちろん、放射線、薬物療法を組み合わせることにより手術で治るかどうかが、ぎりぎりのところで差のつく高度な医療を提供できるよう心掛けています。
3. 気胸、縦隔腫瘍などの多くの病気、難治性の病気などに対しても対応しています。最近増えている肺気腫、間質性肺炎、塵肺などに合併する難治性の気胸に対しては根気よく治療にあたる必要があり呼吸器内科、放射線科と話し合い、多くの治療戦略を立てて対応しています。
4. 胸腔鏡下手術に関してですが、当院では患者さんへの手術による体の負担、痛みを減らすため、また創部の綺麗さにこだわって、積極的に導入してきました。手術器具も年々進化しており、より安全になっています。
5. 一般に肺の手術は難易度が高い手技とされています。安全、かつ確実な手術を提供できるよう日々努めています。手術に入るスタッフが固定しているため安定した医療を提供できていると思います。

●入院診療実績

1. 主要手術(全身麻酔) 年間手術件数 164件

	手術名	件数
1	原発性肺癌	94
2	転移性肺腫瘍	12
3	気胸	28
4	縦隔腫瘍	5
5	その他	25

手術件数の推移(全身麻酔)



● 研究業績

1. 論文発表

- 1) 吉川真生、平見有二、三好健太郎、安藤陽夫
肺末梢の嚢胞内に認めた孤立性扁平上皮性乳頭腫の1例
日本呼吸器外科学会雑誌. 34(2): 149-53, 2020.

2. 学会、研究会

- 1) 肺嚢胞内に有茎性結節として認めた単発性肺扁平上皮乳頭腫の1例
吉川真生、平見有二、三好健太郎、安藤陽夫
第36回日本呼吸器外科学会学術集会. 2019年5月.
- 2) フレイルチェストを呈した18ヶ所の肋骨骨折に対して選択的肋骨固定術を施行した1例
吉川真生、平見有二
第81回日本臨床外科学会総会. 2019年11月.
- 3) 術前CTで肺静脈走行異常を認めた、右中葉肺癌の1手術例
吉川真生、平見有二
第32回日本内視鏡外科学会総会. 2019年12月.
- 4) 乳癌に対するベバシズマブ併用化学療法中に発症した気胸に対して胸腔鏡下肺部分切除＋胸膜癒着術を行った一例
山原美穂、吉川真生、秋山一郎、平見有二
第182回岡山外科会. 2019年11月.
- 5) 関節リウマチ加療中に認めたすりガラス陰影を伴う小結節が進行癌であった一例
林直宏、吉川真生、平見有二
第60回日本肺癌学会学術総会. 2019年12月.

3. 講演

- 1) 第94回岡山胸部疾患懇話会
平見 有二
岡山国際交流センター

2019年9月10日